

“特許管理士試験”の実施に、ブレイクスルー思考を活用する

ー地方都市における民間資格試験の実施を企画計画するー

シスラボ・スエヒロ 末広繁和

1. はじめに

- 1)特許管理士とは、自分で特許出願ができ、特許の知識を個人の発明、企業内での活用、異業種交流などで活用ができる能力を認定した民間の資格制度。
- 2)特許管理士試験とは、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権、新製品開発知識、知的所有権についての知識及び願書作成能力を試験する。年2回東京を中心に全国10～13ヶ所で試験を実施し、毎年約2000名の合格者を排出し、約9千人の登録がある。
- 3)長野県で5つのブロック、北信、中信、東信、南信、諏訪地区から相互研鑽の場として支部組織を作り、25年前から単発的に6回特許管理士試験を実施してきた。
- 4)特許管理士試験の実施には地域から受験者募集、受験勉強の支援、試験の実施の準備などボランティア活動で行うが長野県は広く関係地域の一部の個人へ負担が大きくなる。
- 5)自己啓発を目指した企画を楽しむよりも、むしろ、責任者として試験を実施することが目的となり、苦痛を伴う問題がいつも付きまとっている。
- 6)この問題を解決するために、ブレイクスルーの3つの公理と7つの原則を手がかりに、仕事のサイクルに基づき特許管理士試験実施のプロセスを展開してみた。

第1図 長野県の位置



2. 特許管理士試験実施のプロセス

- 1)1996年11月実施の第81回の試験を“特許管理士試験実施システム”と捉え、3つのサブシステム、①スケジュール管理・調整、②受験者募集、③受験対策支援で展開した。
- 2)仕事のサイクル、PDCA（Plan: 計画、Do: 実施、Check: 確認、Action: 処置）を繰り返し回すことで継続的な発展をねらい、6つのプロセスで展開した。（第2図）
 - 1 目的展開「特許管理士試験を企画する目的は」（第3図）
 - 2 目標、方針（行動基準）の設定（第4図）
 - 3 役割分担、スケジュール表の作成（第5図）
 - 4 アイデア展開（ユニーク差の追求）（第6図）
 - 5 特許管理士試験実施の結果（第7図）
 - 6 次回“特許管理士試験”の実施（第8図）

3. 目的展開から“ものさし”となる目標、方針（行動基準）の設定

- 1)5つのブロックから6名でチームを編成、“問題は目的からとりかかる”ことで目的展開を行い、3つに絞り込み“自分の成長が見たい”いうコンセプトと作った。（第3図）
- 2)コンセプトに基づき、目標“ものさし”を、①当面の目標、②次の目標、③あるべき姿、と議論し、現状目標～未来目標へと時間軸で見ることにより高い目標をねらった。
- 3)②次の目標を意識しながら①当面の目標を達成すべく、ブレイクスルー3つの公理①ユニーク差の追求、②システムで捉える、③特定解を求める”を前提に方針作成。（第4図）

4. 各人の役割分担とサブシステムのアイデア展開

全体システムの方針により、3つのサブシステムで役割分担、スケジュール化。(第5図)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ① スケジュール管理・調整 | 会場準備、進捗管理、会計処理 |
| ② 受験者募集 | 募集パンフ、企画書作成、後援依頼、募集方法 |
| ③ 受験対策支援 | 受験対策講座、テキスト作成、講師選定 |

各サブシステムのリーダーが中心となりアイデア展開しユニーク差の追求。(第6図)

5. 特許管理士試験の結果と継続発展の原則

第81回の試験を1996年11月、長野市の会場で実施、受験者31名。(第7図)

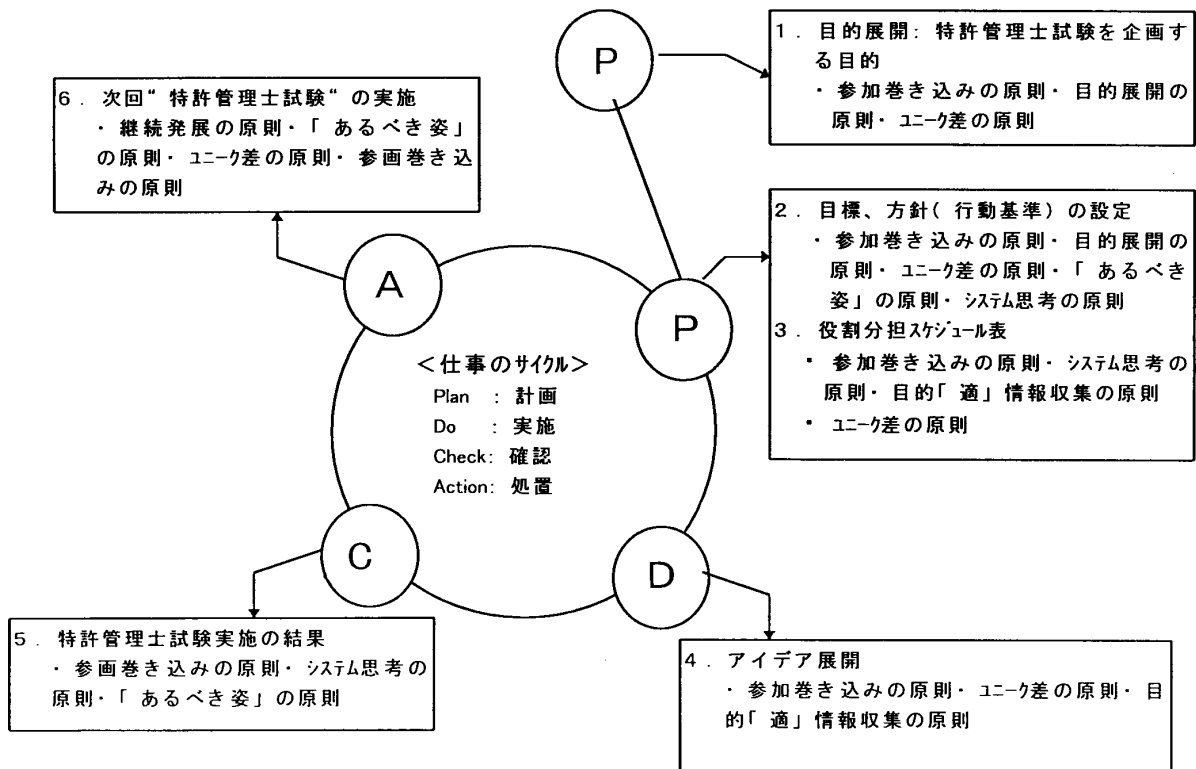
- | | |
|---------------|--|
| ① スケジュール管理・調整 | 全体の調整を各地域で月1回、合計15回で調整、連絡FAX網 |
| ② 受験者募集 | 20名募集で31名応募、DM中心から口コミ中心で実施 |
| ③ 受験対策支援 | 合格率は85%の目標に対し82%、長野市、松本市で各3日間の
対策講座と5地域のフォロー個別研修(既存組織)の実施 |

1泊の反省会でC:確認及びD:処置の検討、継続発展の原則に基づき、第84回(1997年6月)特許管理士試験を岡谷市で開催決定。後日、方針(行動基準)を議論した。(第8図)

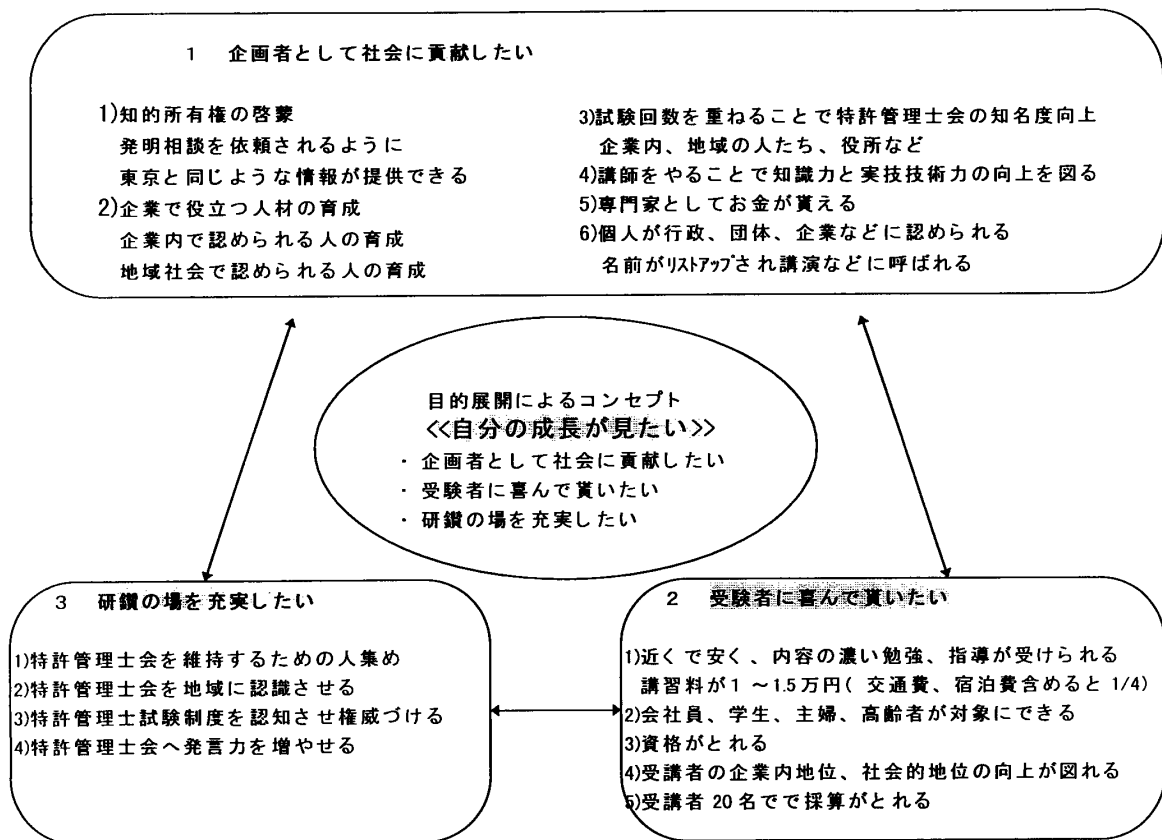
6. おわりに

- 1) 参画巻き込みは、①人は押しつけられたことはやらない、②ははじめから参加し「自分の案とを感じる」、③1つの問題は、他の問題と関連ある、を原則とした。
- 2) 問題をシステムとして捉え、全体と各サブシステム目的を各メンバーが共有し、役割分担することで、各論問題ありを防ぐと共に参画巻き込みができたと思う
- 3) 異業種交流で製品開発をする場合“総論賛成、各論問題あり”で儲かる製品の開発ができた例が少ない。テーマづくりから参画巻き込みの原則を活用した支援をしてみたい

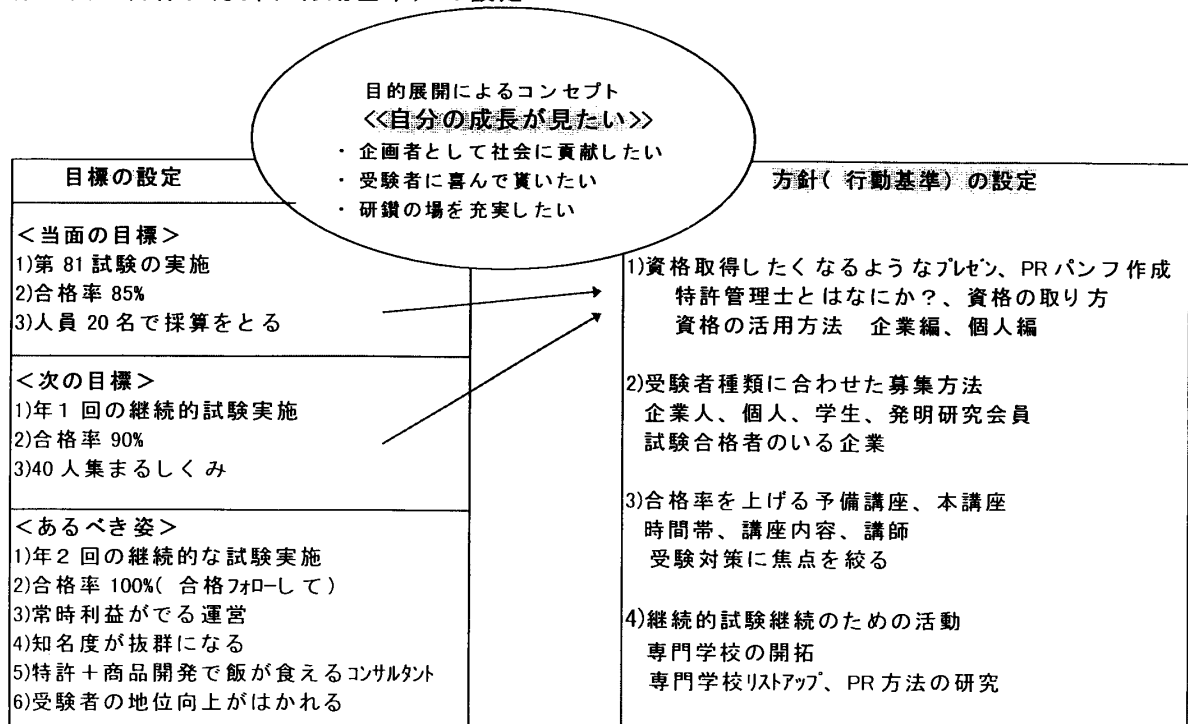
第2図 “特許管理士試験”実施のプロセス



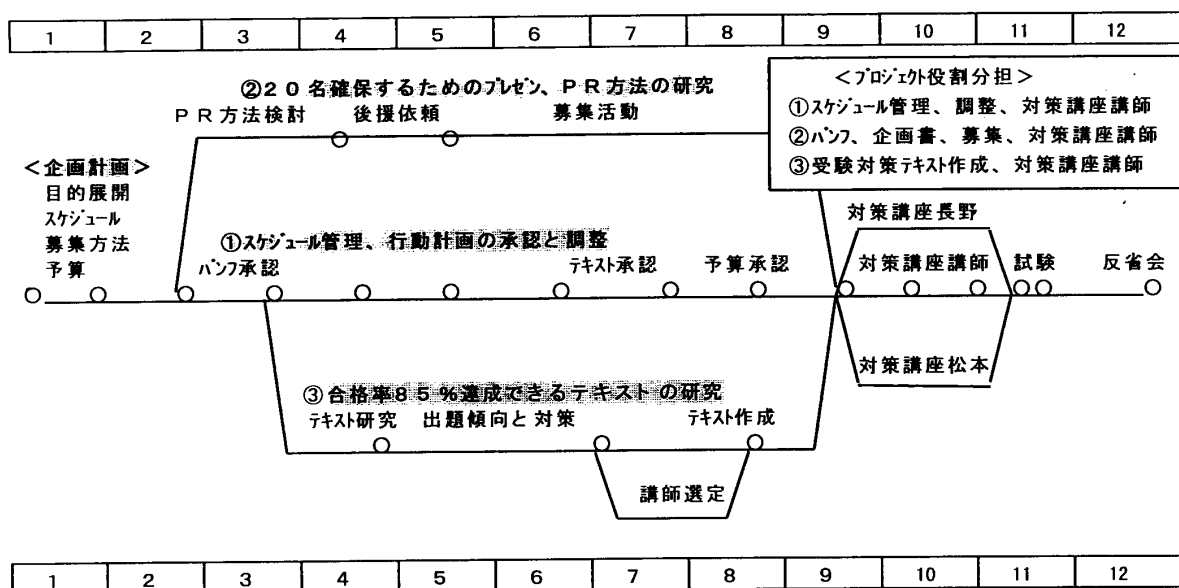
第3図 目的展開 “特許管理士試験を企画する目的は？”



第4図 目標、方針(行動基準)の設定



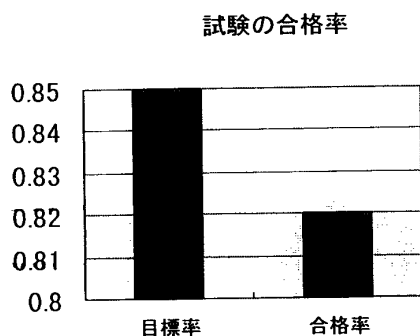
第5図 役割分担スケジュール表(1996.1～1997.1)



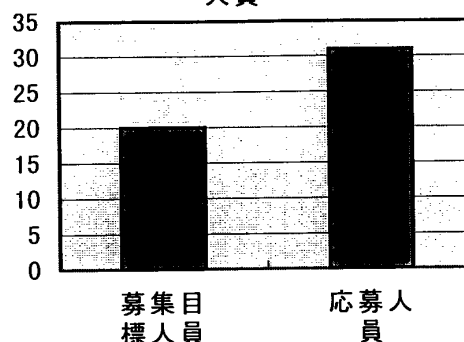
第6図 アイデア展開(ユニーク差の追求)

	従来方式	ブレークスルー思考活用
プロジェクト委員の負担	- 地域で準備(個人型) - 役割集中型 1人当たり負担大きい 1部の人の義務感 - 移動の時間少ない	- 全県で分散準備(チーム型) - 役割分散型で地区でサポート 1人当たり負担小さい - 参加者の満足度 - 地域間の移動の時間多い
プレゼン、PR資料	- 申込み案内書のみ - 単なる申込み案内のみ	- 申込み案内書の他に企画書 - 申込み以外必要性、リット対象者、支援体制PR
募集方法	- 企業DM中心 - 個人的付き合いで依頼	- 地区委員によるクチコミ - 地域地方紙活用(パブリシティ) - 各支部で5人ずつ分担
受験者支援	- 会場1地域 - 時間場所選択できない 3日間の研修のみ	- 会場2地域(長野、松本) - 時間場所の選択可能 3日間以外に地区の発明研究会でサポート
講師育成	経験一部の限られた人	講師多数で経験のチャンス大
対策テキスト	一般的事項も含め全般的に編集	受験用参考書として目的を絞り編集

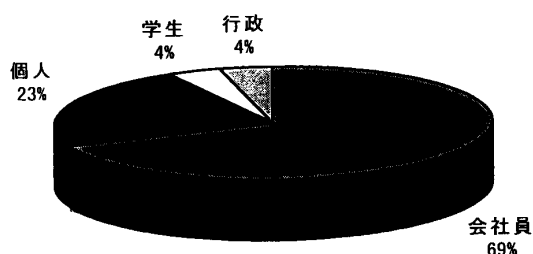
第7図 特許管理士試験実施の結果



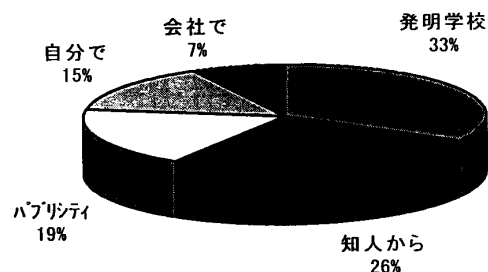
第81回特許管理士試験募集人員



受験者内訳



募集の媒体



第8図 次回“特許管理士試験”の実施(1998年6月)

